

大学図書館に期待するもの —高校教育との接続の視点から—

筑波大学 図書館情報メディア系
小野 永貴

講師紹介

小野 永貴
(おの はるき)

筑波大学
図書館情報メディア系

専門：図書館情報学
主に学校図書館,
学習情報資源,
情報教育研究



本講義の趣旨

本講義の趣旨(1)

- 大学図書館には多様な機能が期待されているが、本講義では学習支援に着目する。
- 特に、**大学初年次の学生に対する学習支援**に焦点をあて、その効果的な施策の検討材料として、**高校教育との接続の視点から**関連動向を論じる。

本講義の趣旨(2)

- **大学1年生は、大学図書館の利用に躓きが生じやすい学年である。**大学1年生の多くは、入学式の数日前までは高校生であるため、高校までの学びと大学での学びの違いを十分に認識していない学生も多い。
- **初めて大学図書館を利用する際に、違和感や失敗経験が生じてしまうと、その後の継続的利用の阻害要因となってしまう。**初年次で躓きが生じると、その後のレポート作成や卒業研究など高度な図書館利用に至るまでの発展プロセスにも、支障をきたしかねない。

本講義の趣旨(3)

- **このような事態を防ぐには、いかに高校での学びとの接続を図り、円滑に順応できるよう支援するかということが、重要である。** そのためには、次代の入学者（=現在の高校生以下の年代）が、どのような教育課程での学びに取り組み、どのように図書館活用の経験を得てきているのか、最新状況を把握し続けることが不可欠である。
- **しかしながら、大学図書館と学校図書館は館種の区分が異なり、法的根拠も資格制度・人的状況も全く違った前提にあるため、情報共有が十分に図られていない。**
- **そこで本講義では、初年次学生に対する効果的な学習支援の施策を検討するために必要な、高校教育の現状や将来展望の知見を、多面的な視点から解説する。**

本コマの内容：目次

- はじめに：講師紹介&本講義の趣旨
- 本論
 1. 高等学校の図書館に関する基礎的理解
 2. 情報リテラシー教育の高大接続の視点から
 3. 探究的な学びとアカデミックスキルの高大接続の視点から
 4. 総括：高大接続・高大連携の重要性
- まとめ

※注：「高大接続」の語の定義について

本講義では、大学入試(入学者選抜)に留まらず、教育内容や学習方法の接続も含めて志向する概念として用います

<1>

高等学校の図書館に関する 基礎的理解

学校図書館の法的根拠： 学校図書館法(S28成立)

- 小学校・中学校・高等学校段階の諸学校において設置が義務。
「学校教育において欠くことのできない基礎的な設備」
- 目的：学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成すること
- 学校図書館の専門的職務を掌らせるため、**司書教諭を置かなければならない**。（ただし、11学級以下の学校においては設置猶予の例外が残る）
- **H26学校図書館法第二次改正による学校司書の法制化：**
学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する**職員（学校司書）を置くよう努めなければならない**。（努力義務）

学校図書館図書標準(H5制定)

- 公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準
- "学校図書館図書標準：文部科学省".
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/hourei/cont_001/016.htm

学校図書館図書標準

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に定めたものである。

ア 小学校

学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3～6	$3,000 + 520 \times (\text{学級数} - 2)$
7～12	$5,080 + 480 \times (\text{学級数} - 6)$
13～18	$7,960 + 400 \times (\text{学級数} - 12)$
19～30	$10,360 + 200 \times (\text{学級数} - 18)$
31～	$12,760 + 120 \times (\text{学級数} - 30)$

イ 中学校

学級数	蔵書冊数
1～2	4,800
3～6	$4,800 + 640 \times (\text{学級数} - 2)$
7～12	$7,360 + 560 \times (\text{学級数} - 6)$
13～18	$10,720 + 480 \times (\text{学級数} - 12)$
19～30	$13,600 + 320 \times (\text{学級数} - 18)$
31～	$17,440 + 160 \times (\text{学級数} - 30)$

ウ 特別支援学校(小学部)

学級数	蔵書冊数

学校司書のモデルカリキュラムの 開始(H28/11通知)

- 「図書館情報技術論」
「学校教育概論」
「学校図書館サービス論」
などの科目が含まれる
10科目20単位
- "「学校司書のモデルカリキュラム」について（通知）：
文部科学省".
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380587.htm

	科目名	司書	教職課程	司書教諭	単位数
学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目	学校図書館概論			※	2
	図書館情報技術論	○			2
	図書館情報資源概論	○			2
	情報資源組織論	○			2
	情報資源組織演習	○			2
	学校図書館サービス論				2
	学校図書館情報サービス論	※			2
児童生徒に対する教育支援に関する科目	学校教育概論		※		2
	学習指導と学校図書館			○	2
	読書と豊かな人間性			○	2

学校図書館ガイドライン(H28/11通知)

- "「学校図書館ガイドライン」：文部科学省”。
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1380599.htm
- 学校図書館の機能：読書センター，学習センター，情報センター

別添1「学校図書館ガイドライン」

学校図書館をめぐる現状と課題を踏まえ、さらなる学校図書館の整備充実を図るため、教育委員会や学校等にとって参考となるよう、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方を示す、「学校図書館ガイドライン」を定める。同ガイドラインは以下の構成とする。

- (1) 学校図書館の目的・機能
- (2) 学校図書館の運営
- (3) 学校図書館の利活用
- (4) 学校図書館に携わる教職員等
- (5) 学校図書館における図書館資料
- (6) 学校図書館の施設
- (7) 学校図書館の評価

学校図書館の現状に関する 代表的な統計(1)

- 文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1360318.htm

- 司書教諭の発令割合、授業負担軽減の実施状況、学校司書の配置状況、学校図書館図書標準の達成率など多数の項目：一部項目は地方自治体別の数値も掲載

学校図書館の現状に関する調査結果

- ▶ [令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について](#)
- ▶ [平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について](#)
- ▶ [平成26年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について](#)
- ▶ [平成24年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について](#)
- ▶ [平成22年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について](#)
- ▶ [平成20年度「学校図書館の現状に関する調査」結果について](#)

学校図書館の現状に関する 代表的な統計(2)

- 全国学校図書館協議会（全国SLA）「学校図書館調査」

<http://www.j-sla.or.jp/material/research/gakutotyousa.html>

- 小学校・中学校・高等学校別の平均蔵書冊数・平均図書購入費等



The screenshot shows the homepage of the School Library Association (SLA). The header includes the SLA logo and navigation menu items: HOME, セミナー・研究会, コンクール・募集, 図書の選定事業, 図書館に役立つ資料, and SLAの出版物. The main content area is titled 「学校図書館調査」の結果. Below the title, there is a paragraph stating that the SLA has been conducting school library surveys since 1963. A section titled 「2021年度学校図書館調査」 provides details about the 2021 survey results, including the number of books per school and the average purchase cost per school. The text mentions that the survey covers various items like collections, staff, and expenses, and that the 2021 survey results are available. It also notes that the survey is conducted annually and that the 2021 survey results are available. The text mentions that the survey covers various items like collections, staff, and expenses, and that the 2021 survey results are available. It also notes that the survey is conducted annually and that the 2021 survey results are available.

HOME セミナー・研究会 コンクール・募集 図書の選定事業 図書館に役立つ資料 SLAの出版物

ホーム > 図書館に役立つ資料 > 「学校図書館調査」の結果

「学校図書館調査」の結果

全国学校図書館協議会では、全国の学校図書館関係者の協力によって、1963年より学校図書館調査を毎年続けています。

2021年度学校図書館調査

2021年度の調査の結果がまとまりました。

調査する項目には、毎年調べるものと特設したのがあります。「蔵書」「担当職員」「経費」は毎年調べています。今回の調査で特設したものは、「オリエンテーション」「整備方針」「電子書籍サービス」です。

2021年度調査の結果では、2021年度の平均蔵書冊数(1校あたり)は、小学校9,626冊、中学校12,048冊、高等学校25,813冊、2020年度決算の平均図書購入費(1校あたり)は、小学校47.0万円、中学校59.8万円、高等学校71.7万円となっています。

「学校図書館図書整備等5か年計画」で地方財政措置されている図書予算が、他に流用されないでちゃんと図書費として予算化されるように、さらに働きかけを強めていく必要があります。

まずはここを見よう
学校図書館担当者のための情報館

参加者募集中!!
もう1ランク上を目指して!
セミナー・研究会

国の学校図書館施策

学校図書館の現状に関する 代表的な統計(3)

- 全国学校図書館協議会（全国SLA）「学校図書館整備施策の実施状況」

<http://www.j-sla.or.jp/material/research/post-45.html>

- 学校司書の配置の予算化状況，学校司書の雇用形態，学校図書館用の新聞購読費の予算化状況等

The screenshot displays the website of the School Library Association (SLA). The header features the SLA logo and the text '公益社団法人 全国学校図書館協議会'. A navigation menu includes 'HOME', 'セミナー・研究会', 'コンクール・募集', '図書を選定事業', '図書館に役立つ資料', and 'SLAの出版物'. The main content area is titled '学校図書館整備施策の実施状況' and includes a sub-section for a 2021 survey. The survey details are as follows:

- 1. 調査時期**: 2021年6月
- 2. 調査者**: (公財) 文字・活字文化推進機構 / (公社) 全国学校図書館協議会 / (一社) 日本新聞協会 / 学校図書館整備推進会議
- 3. 調査対象**: 全国1,741の市区町村教育委員会(悉皆調査)
- 4. 回答数**: (Not fully visible)

On the right side of the page, there are promotional banners for '学校図書館担当者のための情報館' and a seminar titled 'セミナー・研究会' with the goal of 'もう1ランク上を目指して!'.

学校図書館の現状に関する 代表的な統計(4)

• 全国学校図書館協議会 (全国SLA)

「学校読書調査」

<https://www.j-sla.or.jp/material/research/dokusyotyousa.html>

- 小学生・中学生・高校生の平均読書冊数・不読者の割合等：高校生は読書冊数が下落し不読率が高まるこれまでの傾向

● 5月1か月間の平均読書冊数

画像をクリックすると別ウインドウで大きく表示されます。



● 不読者※の割合

画像をクリックすると別ウインドウで大きく表示されます。



<2>

情報リテラシー教育の高大接続 の視点から

児童・生徒および学生の 情報リテラシー育成

- 学校図書館と大学図書館は共通している。
- 学校図書館：
 - 高等学校学習指導要領解説 総則編，情報編
- 大学図書館：
 - 高等教育のための情報リテラシー基準

現状

- 情報リテラシー（情報活用能力）の育成という観点で、この両館種の目標は一致しており、接続しているように見える。



- しかし現場の実態としては、十分に高大接続が機能しているとは言えない。

学校図書館における情報センター機能の実態

- 学校図書館内で児童生徒が情報収集に活用できる機器の設置は、いまだ十分に進んでいない。
ノートPC等の端末を活用して学習できるスペースは少なく、端末を接続できる無線LAN環境の整備も十分ではない。
 - 文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」(結果p.11 (PDFp.15))
 - https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/14104300001.htm

- 一般教室におけるICT環境の普及状況向上と比較して見ると、その差は顕著

- 文部科学省. “学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果”, https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1287351.htm

(B) 学校図書館と情報メディア機器・ICT環境の整備状況 (令和2年5月1日現在)

学校図書館と情報メディア機器の整備状況(いずれか一つ回答)									
	学校数 (A)	学校図書館と情報メディア機器を活用できる部局(コンピューター室等)が一体的に整備されている(備接して整備している場合を含む)(B)	割合 (B/A)	学校図書館内に、児童生徒が、検索・インターネットによる情報収集に活用できる情報メディア機器が整備されている(C)	割合 (C/A)	学校図書館内に、資料管理・資料返却用のみに使用される情報メディア機器が整備されている(D)	割合 (D/A)	整備されていない (E)	割合 (E/A)
小学校	18,894	2,280	12.1%	1,574	8.3%	9,773	51.7%	5,267	27.9%
中学校	9,143	834	9.1%	955	10.4%	4,616	50.5%	2,738	29.9%
高等学校	3,449	178	5.2%	1,538	44.6%	1,241	36.0%	492	14.3%
特別支援学校									
小学部	864	77	8.9%	73	8.4%	164	19.0%	550	63.7%
中学部	857	78	9.1%	74	8.6%	163	19.0%	542	63.2%
高等部	893	88	9.9%	86	9.6%	168	18.8%	551	61.7%
義務教育学校									
前期課程	120	43	35.8%	14	11.7%	39	32.5%	24	20.0%
後期課程	120	38	31.7%	15	12.5%	42	35.0%	25	20.8%
中等教育学校									
前期課程	33	4	12.1%	13	39.4%	13	39.4%	3	9.1%
後期課程	31	3	9.7%	13	41.9%	12	38.7%	3	9.7%
合計	34,404	3,623	10.5%	4,355	12.7%	16,231	47.2%	10,195	29.6%

学校図書館のICT環境整備状況(複数回答可)						
	校内LAN(有線)が整備されている(F)	割合 (F/A)	校内LAN(無線)が整備されている(G)	割合 (G/A)	児童生徒が情報メディア機器を利用できる自主学習スペースが整備されている(H)	割合 (H/A)
	9,994	52.9%	6,534	34.6%	1,157	6.1%
	4,697	51.4%	3,202	35.0%	474	5.2%
	2,237	64.9%	967	28.0%	689	20.0%
	416	48.1%	332	38.4%	89	10.3%
	413	48.2%	327	38.2%	87	10.2%
	441	49.4%	358	40.1%	98	11.0%
	62	51.7%	60	50.0%	15	12.5%
	64	53.3%	58	48.3%	16	13.3%
	18	54.5%	13	39.4%	13	39.4%

学校図書館における 情報センター機能の実態

- 学校の情報環境整備に関する施策・政策においても、学校図書館は情報センターの中核として位置づけられていない：
GIGAスクール構想，学校教育情報化推進計画 参照
 - "学校教育情報化推進計画：文部科学省".
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02144.html
- 現在に至っても、**学校図書館は「読書・国語教育の場」として認識される場合も。**
 - 読書・国語教育の場としてすら機能していない場合も…
 - "法律で設置義務も図書室なし 学習権侵害恐れ、実態把握できず | 共同通信" (2023/05/04)
 - <https://nordot.app/1026826176655785984>

歴史的経緯

- 情報処理分野と図書館情報学分野の「情報教育」に対する認識は、**必ずしも一致したものではなかった**
- 小野永貴. **大学の一般情報教育と接続・統合した情報リテラシー教育～小中高大で一貫した情報リテラシー教育への課題～**. 情報の科学と技術. 2017, vol. 67, no. 10, p. 539–545.
 - https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/67/10/67_539/article/-char/ja/

高校情報科教育の変遷[概略]

- 海外：1980～90年代
 - 情報リテラシーに関するモデルの議論
 - Eisenberg 「Big6 Skills Model」
- 高校情報科の実施以前
 - 中学校 技術・家庭科
 - 高等学校 数学科
- 日本：1997 文部科学省「体系的な情報教育の実施に向けて」
 - "体系的な情報教育の実施に向けて（平成9年10月3日）（情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議「第1次報告」）：文部科学省"
 - https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/002/toushin/971001.htm
 - 「情報リテラシー（情報活用能力）」

高校情報科教育の変遷[概略]

・情報教育の3つの柱

- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的な理解
- ・情報社会に参画する態度

・情報活用の実践力を育む場としての図書館への期待

- ・「国語の表現活動及び理解活動を、言語情報の収集及び活用の観点から捉え、言語情報に関する「情報活用の実践力」の基礎・基本となる能力の育成を図る。その際、例えば、学校図書館等を活用して学習課題の追究を行うことや、コンピュータや日本語ワープロ等を活用して、効果的に発想、表現、推敲したり、共同で文書を作成したりすることなどが考えられる。」
- ・「教育用素材の宝庫である博物館、美術館、図書館等の社会教育施設や、他の文化、教育・研究施設等に簡単にアクセスできるようにすることにより、」

高校情報科教育の科目の変遷

情報活用の実践力 情報の科学的な理解 情報社会に参画する態度

- 1999告示<実質的に3科目から学校が選択>

情報A

情報B

情報C

- 2009告示<実質的に2科目から学校が選択>

社会と情報

情報の科学

- 2018告示

情報Ⅰ (必履修)

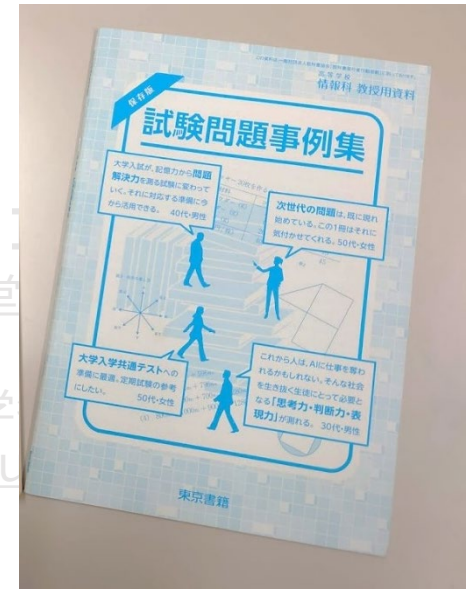
情報Ⅱ

高等学校「情報科」教育の新たな動向(1)

- 学習指導要領改訂による新たな**必修科目「情報Ⅰ」**の開始
 - 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 情報編. 開隆堂出版, 2019, 265p., ISBN9784304021633.
 - “高等学校情報科「情報Ⅰ」教員研修用教材”. 文部科学省.
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416756.htm, (参照 2022-06-10).



高等学校「情報科」教育の 新たな動向(2)



- 学習指導要領改訂による新たな必修科目「情報」
 - 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 情報編. 開隆堂 265p., ISBN9784304021633.
 - “高等学校情報科「情報 I」教員研修用教材”. 文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/756.htm, (参照 2022-06-10).

• 大学入学共通テストへの「情報」の新設と国公立大学における導入の流れ

- 国立大学協会. “「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度—国立大学協会の基本方針—” . <https://www.janu.jp/news/9466/>
- 小野永貴. 情報入試を越えた情報教育の高大接続に向けて — 共通テストの先を見据えた情報科へ—. ニューサポート情報. 2022. (参照 2022-06-10).
https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2022/2022048230.htm

新たな「情報科」を 誰が指導するのか

- 情報科の教員養成の経緯および情報科教諭配置状況の実態
 - 朝日新聞. “「情報」専門教員が不足 急ごしらえの講習→採用進まず”. 朝日新聞デジタル.
<https://www.asahi.com/articles/ASP4H7G0KP3TUTIL03G.html>,
(参照 2022-06-10).
- 情報科教員養成と教員採用の課題

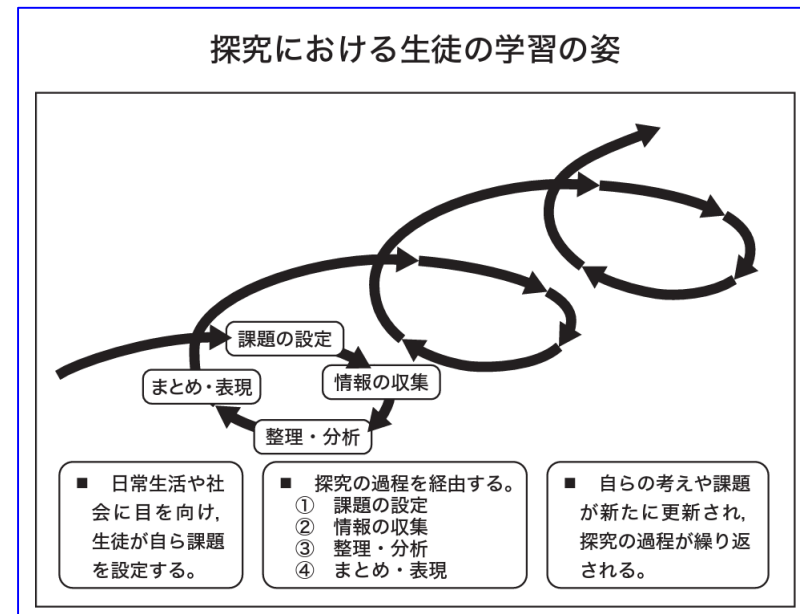
<3>

探究的な学びとアカデミック スキルの高大接続の視点から

探究的な学びとは何か

- 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編. 学校図書, 2019, p.12(PDF=p.20).

生徒は、①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、
②そこにある具体的な問題について情報を収集し、
③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、
④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始める
といった学習活動を発展的に繰り返していく。



- 高校段階で探究的な学びの経験や能力を得ることは、大学入学後のアカデミックスキル獲得や研究能力の向上に資する可能性

新学習指導要領における「探究」

- 学習指導要領改訂により、**全校種・教科で「探究的な学び」が位置づけられた。**
 - もはや探究学習を求められるのは、先駆的な進学校だけではない。
- 特に高等学校では、「理数探究」「日本史探究」「古典探究」など、探究の名を冠する科目が複数新設された。
- 小学校・中学校は「総合的な学習の時間」であるのに対し、**高等学校は「総合的な探究の時間」となった。**
 - 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編. 学校図書, 2019, 185p.

現状

- 現在は新学習指導要領開始直後の過渡期であり、まだ多くの高校生に「探究的な学び方」が浸透しているとは言えない
 - 小野永貴, 常川真央, 宇陀則彦. **新型コロナウイルス感染症に伴う図書館利用制限が高校生へ与えた影響に関するオンラインアンケート調査.** 学校図書館学研究.
 - 特徴的な結果を次ページに抜粋 = ★

★国内在住の19歳以下の高校生を対象としたアンケート〈結果抜粋〉 ※2020年実施

表3.5 授業や学習で調べものをする際の情報源（Q1学年別集計結果）【抜粋】

情報源	度数（割合）
学校図書館	118 (30.0%)
公共図書館	83 (21.1%)
大学図書館	0 (0.0%)
インターネット	359 (91.3%)

N=393

表3.6 授業や学習で調べものをする際の情報源の組み合わせ（Q1選択パターン別集計）【上位のみ抜粋】

組み合わせ	度数（割合）
図書館 + インターネット	96 (24.4%)
図書館 + 書店 + インターネット	44 (11.2%)
インターネットのみ	206 (52.4%)

N=393

探究学習の先行的実施校(1)

- 一方で、一部の高等学校は、数年以上前から探究学習を取り入れ、課題研究や卒業論文を課している学校もある。
- 例：スーパーサイエンスハイスクール校（SSH），スーパーグローバルハイスクール校（SGH） など



- 小野永貴, 宇陀則彦. 高大連携における大学図書館の利用可能性：
スーパーグローバルハイスクール校での課題研究における文献利用実態.
図書館情報メディア研究.

<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/56409>

- 特徴的な結果を次ページに抜粋 = ☆

☆SGH校で探究学習を行った高校生が執筆した論文の引用文献調査〈結果抜粋〉 ※2020年調査

表4.3 調査②結果（参考文献記述件数）

	A校	B校	C校	計
図書	92	30	22	144
新聞記事	2	0	11	13
学術論文・雑誌記事	5	15	23	43
Webページ	295	93	52	440
その他	12	10	18	40
不明	4	7	6	17
計	410	155	132	697

表4.4 学術論文・雑誌記事の内訳（OA状況・掲載先別）

		件数
オープンアクセス無し		10
オープンアクセス有り	学術機関リポジトリ	17
	J-STAGE	7
	Science Direct	1
	学会等Webサイト	8

探究学習を行う高校生の一部は、論文等の学術文献を利用している

探究学習の先行的実施校(2)

- 例：国際バカロレアディプロマプログラム
- **Extended Essay（課題論文）が必須のコア科目**となっている。
- そのような教育課程のなかで、学校図書館も「**図書館、マルチメディア、およびリソースが、プログラムの実施において中心的役割を果たすこと**」と規定されている。
 - Anthony Tilke, 根本彰, 中田彩, 松田ユリ子. 国際バカロレア教育と学校図書館: 探究学習を支援する. 学文社, 2021, 148p., ISBN9784762031069.

高校生の探究学習成果の最前線

- 既に中高生の参加を歓迎している「学会」が多数あり、大学進学前から学術発表を行える機会が増加している

(過去の例)

- 情報処理学会「中高生情報学研究コンテスト」
 - <https://www.ipsj.or.jp/event/taikai/83/83PosterSession/>
- 日本生態学会「高校生ポスター発表会」
 - <https://esj.ne.jp/meeting/68/junior.php>
- 日本水産学会「高校生ポスター発表会」
 - <https://jsfs.jp/act/annual-meeting/>
- 日本古生物学会「高校生ポスター発表」
 - <http://www.palaeo-soc-japan.jp/events/highschool-poster.html>

「探究」を誰が指導するのか(1)

(探究学習指導ができる高校教員はどのように養成されるか)

- **教員免許状「探究」は存在しない。**
各教科の枠組みの中で探究的な学習の指導を取り入れ、「総合的な探究の時間」においても既存の教科教諭が担当する。
 - 自身が「探究」を経験したことがない状態のまま、探究学習の指導にあたることになる教諭が一定数存在する。
- 教員免許状を取得するための授業（教職課程）では、探究学習の指導法はどのように扱われているのか：
「教職コアカリキュラム」(p.20)や「総合的な学習（探究）の時間の指導法」参照
 - “教職課程コアカリキュラム”. 文部科学省.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/houkoku/1398442.htm, (参照 2022-06-10).

「探究」を誰が指導するのか(2)

(探究学習指導ができる高校教員はどのように養成されるか)

- 探究学習に関する指導・支援の専門職としての**司書教諭・学校司書の配置の現状：十分な配置には至っていない**
 - 文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」(前出) ,
全国学校図書館協議会(全国SLA)「学校図書館整備施策の実施状況」(前出)

<4>

総括：

高大接続・高大連携の重要性

大学図書館に期待すること(1)

- 情報リテラシーおよび探究的な学びのどちらの視点から見ても、現在の高校教育はまさに激変の過渡期である。
よって、**今後数年間は、高校現場で行われる情報リテラシー教育や探究学習指導はバラつきが大きいと予測される。**
- 大学1年生の入学時点でのスキルレベルや経験有無も、人により差異が大きい状態が続く。（場合によってはさらに乖離）



- 大学図書館は、**未成熟な学生の基礎レベルを底上げする機能と、初年次から高い研究意欲を持つ学生をさらに引き上げる機能の、両面で効果を発揮することが期待される。**
- 高校までのバラつきが大きい状況だからこそ、大学図書館での初年次教育が極めて重要となる。

大学図書館に期待すること(2)

- 高校教育の新たな状況に合わせて、内容的な接続が図られるよう**基礎ガイダンスを設計することは重要**
- 一方、**大学初年次=全て入門レベルと一括せず**に、**1年生から習熟度別のオプションガイダンスなどを開設する工夫も有効**
- 筑波大学の例：1年生から自主的に研究活動へ励む学生も
 - “AC入試レポート集 入学者の「合格まで」と「入学まで」”. 筑波大学アドミッションセンター.
<https://ac.tsukuba.ac.jp/examination/leaf>, (参照 2022-06-10).
 - “先導的研究者体験プログラム (ARE) ”. 筑波大学.
<https://www.are.tsukuba.ac.jp/>, (参照 2022-06-10).

高大接続⇒高大連携への期待(1)

- 大学入学後に高大接続を図るだけでなく、**大学図書館が高校段階の教育向上へ直接的に貢献する高大連携も有益**
- なぜなら、基礎レベルの底上げをするには、**大学入学後に急に学び方を変えてもらうことは難しい**
- **高校時代から大学での学びを見据えた学び方を形作りたい**
 - 全国学校図書館協議会（全国SLA）「学校読書調査」（前出）
 - “第58回学生生活実態調査 概要報告”. 全国大学生生活協同組合連合会（全国大学生協連）.
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>, (参照 2023-07-03).
 - 溝上慎一, 京都大学高等教育研究開発推進センター, 河合塾. 高大接続の本質: 「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題. 学事出版, 2018, 206p., ISBN9784761923846.

高大接続⇒高大連携への期待(2)

- ・ 溝上慎一, 京都大学高等教育研究開発推進センター, 河合塾. 高大接続の本質: 「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題. 学事出版, 2018, 206p., ISBN9784761923846.
 - ・ **高校2年時点での資質・能力が、大学1年時点の資質・能力に大きく影響を及ぼす。**(小野による要約)
 - ・ 受験を経て大学入学までに成長する者の割合は少なく、よって**高校教育が入試対策に偏重してはならない。**(小野による要約)

議論したり発表したり、答えが複数あるような問題解決をしたりする力が大学受験で求められることは、たとえあったとしても大きなものではないだろう。しかし、大学や仕事・社会ではそれがとても求められている。議論や発表、問題解決だけが重要だといっているわけではない。文部科学省施策で習得・活用・探究とまとめられるように、活用・探究の新しさが打ち出されつつも、学力の基礎基本である習得部分はしつかり残っている。誰も否定していない。むしろ、習得があってこそその活用・探究の成果があると考えられている。しかし、**大学受験の目標ばかりを主張する高校教員は、この新しく求められている議論や発表、問題解決といった力、文部科学省的に言えば活用・探究の重要性を理解していない。**(引用)

図書館の高大連携の役割

- 高校時代から大学レベルの資料を活用し、論文を書く生徒も存在する
- **高校時代から大学図書館を活用する経験は、大学入学後の学びの円滑化に繋がる**という事例も確認

- 小野永貴. 高校生の学習情報資源の利用実態を通じた図書館の高大連携の役割に関する研究. 筑波大学, 2021, 博士論文.

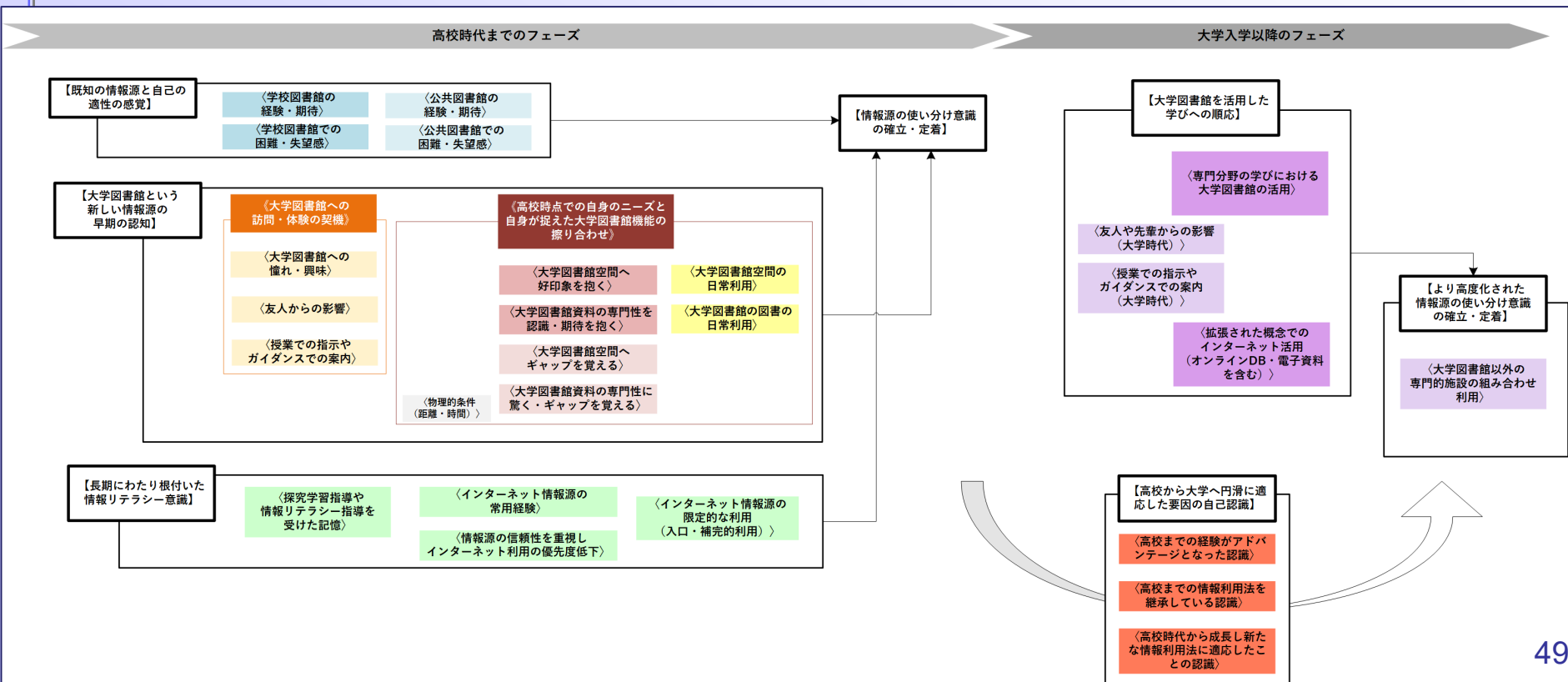
<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/records/2002082>

- 特徴的な結果を次ページに抜粋 = ◆

◆高校生が大学図書館を利用可能な連携実施校の卒業生インタビュー〈結果抜粋〉 ※2020年調査

修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいて、11名の発話記録から説明可能なストーリーラインを生成

▼結果図



おわりに

おわりに

- 大学図書館の高大連携を、アウトリーチや社会貢献・地域連携という文脈で捉えるだけでなく、**将来大学に入学してくる未来の学生への先行投資**として捉える。
- それが結果的に、未来の大学図書館の初年次学習支援へとつながる。
- 実際に、高大連携施策を行っている大学図書館の事例は国内でも複数ある。
 - 蒲生英博, 瀬戸有希子, 杉浦未布子, 寄本真里, 阿部由貴. 高大連携における大学図書館の役割. 大学図書館研究. 2020, vol. 116.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcul/116/0/116_2071/article/-char/ja/
 - "高大連携と大学図書館". <http://www.opac.nagoya-ku.ac.jp/link/koudai.html>

ご清聴ありがとうございました

ご質問がありましたら、よろしくお願いたします

筑波大学図書館情報メディア系

小野 永貴

milkya@slis.tsukuba.ac.jp

